

インターバンクの声（2016年4月11日）

さすがに110円は簡単に下抜けると思っていなかったのかどうか定かでないが麻生財務相の円高牽制発言に代表されるように、一向に止まる気配のない円高相場に政府筋にも焦りの色が見え始めている。金曜日の朝の閣議後、麻生財務相が「場合によっては必要な措置」と発言したことで東京市場では徐々に円が売られ、ロンドン勢の参入後には109円台を回復した。その後、ニューヨーク市場でも何とか108円台の中盤から後半の水準を維持していたが、米株価が上げ幅を縮小させ始め、やはり米国の早期利上げ後退観測が根強いとあって、再び円買いに動き始めてしまった。一部には107円台を付けたことで達成感が出ているとの声も聞かれていたが、本邦当局の介入実施には懐疑的な見方が多く、簡単には円高が止まらない雰囲気だ。今週後半に予定されているG20とIMF総会で為替市場の安定に向けてどこまで話し合われるか注目だが、今日から本格化する国内主要企業の決算発表の内容も気にかかる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。